

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700525		
法人名	有限会社 耕グループ		
事業所名	グループホームくわのみ		
所在地	岐阜県恵那市岩村町飯羽間字塔ヶ根1621番地6		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171700525-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境にある立地を生かし、ホームの菜園や畑で育てた野菜等を入居者と職員が一緒に収穫し、日々の食材として調理し食べるなど、自然とふれあう、ゆったりとした暮らしを大切にしている。法人内のデイサービスや看護小規模多機能ホームとの日常的な交流も頻繁にあり、馴染みの関係が築けている。また地域の人々との日常的なつながりを大事にしており、日常的なボランティアの受け入れ、地域住民参加の各種の行事(季節ごとの祭りやコンサート等)等を実施し、地域に開放されたホーム作りを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、岩村城下の街並みと田畑と森の風景が広がる地にあり、地域住民の力を借りて、利用者が住み慣れた地域の中で共に楽しめる支援に取り組んでいる。法人は時代のニーズに合わせた福祉サービスを展開し、地域の力、人と人が関わる人間力、それを担う福祉専門職の力を融合し、山里の中での町興しを実践している。コロナ禍にあっても、全ての行事を中止するのではなく、利用者の「やりたいことを叶える」ために、職員の知恵と工夫で実現に取り組んでいる。また、ホームページやSNSで、取り組み内容や利用者の笑顔を発信しながら活動の数々を地域につなげ、地域密着型サービス運営のモデルとも言える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で内容を検討した理念(利用者の自立と尊厳を支える、サービスの質の向上に努める、障害があっても住み慣れた地域で暮らし続ける、働きやすい職場をつくる)について、職員一人ひとりが理念について意識を深め遂行している。	理念について、職員が正しく学べるよう、外部講師を招いた研修を毎月開催している。また、事業所独自の具体的目標である「利用者のやりたい事を叶える」を掲げ、コロナ禍であっても、出来る範囲で支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、行事等には積極的に参加している。また事業所の企画した催しに地域住民が参加され、楽しんでいる。地域の方がボランティアで来所し季節の料理を利用者と作っている。今年は新型コロナウイルス対策により交流を制限している。	今年度は新型コロナ対策により、様々な交流を制限しつつも、出来る範囲で地域との関わりを継続している。感染予防対策をしながら、ボランティアの協力を得て、障子貼りや梅雨時の大掃除、朴葉寿司・柏餅作り等を行っている。挨拶や野菜の差し入れなどは、デッキや窓越しに言葉を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等を主催し、地域の人と認知症への理解を深めたり、認知症予防へ取り組んでいる。また、地域に対して「くわのみ介護・看護なんでも相談所」を設置し、地域の方の相談に応じている。今年は新型コロナウイルス対策により開設を制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施しており、くわのみ併設の他事業所と近況報告や意見交換を行い、事業所活動に活かしている。	運営推進会議を定期に開催し、活動内容やアクシデント・ヒヤリハットの報告を行い、意見交換をしている。新型コロナ感染拡大予防の為、3月から運営推進会議を中止して書面報告とし、具体的対策も報告していたが、7月は、運営推進会議を開催し意見交換を行うことが出来ている。	アクシデントやヒヤリハットの報告から、対策やケアの見直しを行っており、意識の高さが伺われる。さらに原因を分析し、その結果を活かした取り組みに発展させ、より安全な利用者支援に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢福祉課及び地域包括支援センターの職員とは、日常的にコミュニケーションをはかり、情報交換を行っている。また市の主催する認知症ケア連携推進連絡会、みえ研への参加、介護相談員の受け入れも行っている。包括主催「らん伴」の実行委員会にも参加している。	市町村とはメールや電話、文書等で日常的に情報交換をしている。市主催の認知症連携推進連絡会や「見える事例検討会」等で、情報の共有と協力関係を築いている。介護相談員や中学生の福祉体験の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関やデッキ側の扉などを開錠する等、入居者に身体拘束をせず、普通の暮らしができるようなケアに意識的に取り組みをしている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、事例の報告と共にケア方法の検討を行っている。年2回職員会議を兼ねて、拘束をしないケアの学習会を行っている。「安全を守る為と介護者が思っても、本人の意に反していたら拘束である」を合い言葉に、利用者の状態を常に把握し、安全確保の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	成年後見センター等が主催する高齢者虐待防止に関する研修や定例の学習会などを通し、虐待の防止に努めている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の定例学習会などに参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明を行い、理解を得ている。不明な点についても丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常のコミュニケーションを大切にしており、ケアへの不満・要望に該当すると思われる内容については、職員会議で対応を検討している。家族には個別に話しを伺い、苦情・意見の受付窓口、解決方法等を明らかにしている。	職員は、常に傾聴に努めながらケアを行い、利用者の思いを把握するよう心がけている。家族とは、面会時や利用者の受診の際に情報交換し、行事や運営推進会議等でも意見を聞き、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な主任・副主任会議(月1回)、職場会議(月1回)を開催し、職員の意見・提案に耳を傾け、事業所運営に反映している。また日常的に職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	管理者と職員は、職員会議や申し送り時、また、日頃の業務の中でも意見や提案が言い易い関係作りが出来ている。新型コロナウイルス感染予防対策を含めて、利用者が過ごすリビングの席替えやケア方法の改善等、職員の意見を取り入れ実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	岐阜県より「子育てエクセレント企業」の認定を受け女性が働きやすい職場環境を整備している。(希望休の取りやすさ、時間の調整等)また、職員のスキルアップの為に社内でもプロジェクトやサークルを立ち上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例学習会をはじめ、外部研修や学会への参加を積極的に奨励し、研修機会を保障している。また年1回、職場内の実践研究発表会をもうけ、研究活動に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	恵那市内の事業所の集まる交流会に参加したり、友好関係にある3つのグループホームで年3回、実践発表や相談等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人に会い、不安なこと、要望などをじっくり聴くように努め、その後のケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家庭を訪問し、家族の介護の様子、思い、意見・要望等をお聴きし、よりよいケアにいかすように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人では、グループホーム以外に複数の事業を展開しており、それらのサービス利用をはじめ、他事業所の利用と連携、行政との連携を重視している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とゆっくと会話を楽しむ時間を意識的にもったり、一緒に調理や家事を楽しむ等、入居者の自己決定を大切にしながら、職員との関係性を築くことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度の文書による近況報告をはじめとし、日常の面会時、日帰り旅行などのイベントの際に、入居者の生活の様子・思いを伝え、情報共有するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、近所の人と会える機会をできるだけつくるように、会う時間を限定せず受け入れられている。また時々、地域の馴染みの商店や自宅に出掛け、家族や近隣の人と会える機会をつくるようにプランにも反映している。	馴染みの人や場所との関係を継続できるよう、利用者のつぶやきや会話から新たな情報を収集し、馴染みの場所への外出をケアプランの中に入れていく。コロナ禍であっても、工夫をしながら馴染みの場所に出かけたり、知人や家族の面会も窓越しに行うなど、互いの笑顔を確認できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中や、誕生会、外出などの機会を通して、入居者が孤立しないように、お互いが助け合える関係づくりをはかっている。職員も黒子となり、利用者さん同士の関係を取り持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、法人の活動の様子を広報紙でお知らせしたり、色々な行事のお知らせを行って、利用のあった家族にもボランティアに参加してもらっているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる人にはよく話を聴くように努めるとともに、意思伝達の困難な人の場合は、日頃の言動や表情、過去の情報などをもとに暮らし方の希望・意向の把握に努めている。「～したい」をかなえられるようにしている。	職員は、常に傾聴に努め、利用者に寄り添い、思いや意向を把握している。新型コロナウイルス感染予防の為、法人主催の夏祭りは中止となったが、利用者の要望を叶えるため、職員の協力と工夫で事業所独自の夏祭りを開催している。目標であった「利用者のやりたい事を引き出し形にする」を実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を活用し、職員が本人・家族からの生活歴、これまでの暮らし方、気持ちをじっくりと聴くように努めている。入居時に、可能な限り家庭訪問し、今までの暮らしぶりや生活環境を知る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を活用し、多方面からの本人の状況把握に努めるとともに、日々の職員間の情報交換、ケースカンファレンス等を通し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、入居者個々の担当職員が、本人、家族等と話し合い、介護計画を作成している。また職員会議でもみんなで共有し、意見交換等を行っている。困難事例に対しては部署を越えて検討会を行っている。	担当職員が利用者と家族の意向や要望を聞き、モニタリング、プランの見直しを行っている。介護計画案に職員及びケアマネージャーが加筆、修正して完成させ、職員会議で確認、共有をしている。新規利用者は仮プランを立て、翌月、利用者の現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに、ケースカンファレンスを開き入居者本人の思いを理解することを心がけるとともに、職員間の情報共有を行いながら、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居高齢者(自立)にサポートルームの提供。地域の需要に応えられるようにしている。		

岐阜県 グループホームくわのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをはじめ、地域の介護保険事業所、地域包括支援センター等、フォーマル、インフォーマル問わず、多様な地域資源との協働を大事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、定期受診の介助支援、往診の手配等、本人・家族の意向を聞き、かかりつけ医との関係構築に努めている。また、事業所内でのカンファレンスにも参加していただくこともある。	入居時に、かかりつけ医について説明し、利用者・家族が選択している。協力医は月1回の往診があり、かかりつけ医への受診は家族が行なう事とし、担当医に利用者の状態や情報を提供している。受診後の情報も共有している。緊急時や家族の事情によっては、職員が同行して受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に訪問看護ステーションがあり、週に一度、入居者の健康状態を報告しアドバイスを受けながら、健康管理に努めている。また、日常的にも困ったときなど相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供を行ったり、また、入院時の様子を病院の相談員に確認している。退院時にはカンファレンスを開催して頂き、本人、家族も安心して過ごしてもらえるよう情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人の状態が重度化した場合や終末期になった場合の意向をお聞きしながら、事業所の方針を文書で説明し、同意を得ている。病状に応じて、段階的に家族・関係者と十分に話し合い方針を共有している。	契約時に重度化や終末期の指針を説明し、利用者・家族の意向を確認しているが、段階的にも話し合いの機会を設けている。また、医療機関と連携しながら、終末期ケアの研修や学習会を重ね、看取りも行っている。職員には看取り後のアンケートやグリーフケアを行い、精神的サポートも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は8月に消防署の職員を講師に招き、救命救急法を教えてもらった。さらに看護師の指導による「急変時の対応」の講習を開催し、介護職員で学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・初期消火訓練を夜勤帯を想定して実施している。近隣の地域住民にも参加していただき、地域との協力体制を重視した災害対策を目指し、地域の避難拠点として備蓄庫の検討を会社全体で行っている。	定期的に避難訓練を実施している。利用者が安全に避難できるよう、近隣住民の協力も得ている。また、災害時において、地域住民の避難拠点として受け入れが出来るよう、地域や行政と話し合うとし、備蓄庫2棟の設置を検討している。	地域住民の参加と協力の下で、避難訓練が継続できている。今後は、災害の種類や規模も想定して、具体的に役割分担を明確にした訓練と協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケア場面において入居者の人格を尊重する言葉かけ(指示語は絶対に使わない等)を行ったり、プライバシーを損ねないように注意深く、さりげなくの対応を心がけている。相手の気持ちを考えるよう職員に指導を行っている。	職員は、言葉の表現方法について学んでいる。常に利用者の人格を尊重し、思いやりある声かけに努め、行動を制限するスピーチロックにならないよう心がけている。また、指示的な言葉を発しないよう、常に職員間で意識し合いながら、利用者の尊厳と自立を支えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日一日をどう過ごすか、何をするか等、入居者の意向を尊重し、一緒に活動を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は特に決まっておらず、全員揃ってやらなければならないということも決めていない。活動は強制することなく、その人の生活のリズムやスペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が来所し定期的カット(カラーリングやパーマ)を行っている。もちろん希望者は直接美容院に行くこともできる。また、衣服、化粧品などの買い物にも職員と一緒に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	くわのみ農園で作った野菜を収穫し、摂れた野菜を使って食べたい料理を作っている。また買い物に行き、お菓子やジュースも選んでもらうようにしている。また、野菜の皮むきや、野菜切り、盛り付けなどを一緒にやっている。	主の食材は外注であるが、野菜は事業所の農園で収穫した物も利用し、専属の調理員が作っている。週2回、パン食の日を設けたり、サツマイモや栗など、秋の味覚を献立に取り入れる工夫や、郷土食の朴葉寿司を利用者と一緒に作るなど、食の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量をチェックし、水分確保に努めている。またお茶の時間の飲み物の菓子の種類、量なども個々の健康状態に合わせて調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は、義歯を預り、消毒を行い、口腔ケアをしている。毎食後の歯磨きも欠かさない。		

岐阜県 グループホームくわのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある人、自分からトイレに行けない人については、排泄パターンを掴み、トイレ誘導している。新規の利用者にはセンター方式を利用して24時間の排泄パターンを把握するように努めている。食事前や入浴前にもトイレ誘導し、気持ちよく食事・入浴ができる様に努めている。	利用者の排泄習慣やパターンを把握し、その人のリズムに合ったトイレ誘導を行い、快適な日常生活が送れるよう支援している。利用者の昼間と夜間の排泄状況や排泄用品も検証し、適切な支援で排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で毎日の排便状況を確認し、個別に対応している。またできるだけ散歩、掃除等の運動を行うようにしている。体操を日課に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の体制上夕食後の入浴はできていない。日中に入浴になるが、順番は、おおよそ決めておくものの、その人の気持ちを大事にして、状況にあわせて柔軟に対応している。「入りたい」という人にはできるだけ希望を叶えている。	入浴日は決めているが、希望に応じて柔軟に対応している。職員シフトの関係で異性介助になることもあるが、同性介助の希望にも応じている。各種入浴剤や、菖蒲湯、柚子湯などの季節の湯で楽しみにつなげている。入浴時の安全安楽に配慮し、法人のデイサービスの機械浴を利用する人もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室やリビングで休息をとっていただくようにしている。また夜間覚醒が頻回な人には夜間良眠できるように、日中少しでも身体を動かすように働きかけている。また、夜間頻尿の方に対しても、医師と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤投与がないように夜勤者が翌日の薬のセットをする時、正確にチェックすること、服薬時に職員と本人で声に出して確認するようにしている。またその薬が現在の状況に適しているかどうか医師と相談し常に見直しをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外仕事が好きな方へ広い畑を提供し好きな花や野菜を育てていただき、皆で食べたり、お世話になった方へプレゼントしたりして役割や楽しみを持っていただいている。それぞれの利用者が役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望をお聴きし、買物、外食、散歩、ドライブなどによく出かけている。年1回は利用者、家族、地域住民等と一緒に日帰旅行に出かけている。	利用者は、日常的に広い敷地内を散歩したり、デッキでの日光浴など、外気に触れて季節を感じている。最近では近隣へ、山羊の子を見に行くのが楽しみになっている。小原の四季桜や飯高観音、ハスの花見等へ出かけたり、ドライブを兼ねて利用者の自宅や買い物等の外出支援もしている。	

岐阜県 グループホームくわのみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が欲しい物があった時は事業所で立替払いしており、買物などの場面で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、いつでも家族等に電話をかけることができるようにしている。また年賀状など書くこと、書いた手紙を投函する等の支援をしている。家族と電話で話す内容のプランを立てている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの室内には四季折々の花を飾り、季節感を感じていただくように工夫している。ナツメロや童謡など、入居者の好きな曲をBGMで流したり、入居者の自作のはり絵やぬり絵、書、俳句などを展示している。また、外の風景を見やすい様な機の配置にしている。	事業所のシンボルツリーである桜の大木が四季を感じさせ、玄関にあるフクロウの置物や壁面の「絆」の額が印象的である。共用空間は、和筆筒の設置で落ち着いた雰囲気を出している。退院の利用者のために、ボードいっぱい「○○さんお帰りなさい」と書かれ、温かく迎える準備がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景色を見ながらくつろげるように、デッキに椅子やテーブルを配置したり、テレビを見たり誰でもソファでくつろげるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔から使っていた筆筒、テーブルや椅子、人形など馴染みの品を持ち込んでいたり、思い出の写真を飾ったりなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。その利用者らしさが出る様な居室になるようにしている。	居室には、ベッド・クローゼット・洗面台が備えつけてあり、筆筒やテーブル等を持ち込んでいる。衣類や排泄用品、日用品等をクローゼットに整理整頓して収納し、家具類は使い勝手よく、利用者の動線に配慮して設置している。家族の写真や愛用品を置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、歩行が不自由な入居者もつかまり歩行が可能である。またトイレ、浴室にも手すりが設置されている。場合によっては居室内にもその人にあった手すりを設置している。		